

「豊崎小 グランド・デザイン」

令和7年5月19日

迷いましたが、グランド・デザインを作りました。迷ったのは、前任の新垣校長が策定した令和7年度の学校経営方針の取組に自分なりに新たに加えたものや取組の比重が変わってくるものがあるからです。グランド・デザインについて説明する前に、今年度から9年度にかけて県が新たに策定した『自立した学習者』育成プロジェクトについて簡単に紹介します。策定のねらいを「社会を取り巻く環境は急速に変化しており、将来を担う子供たちには、変化に対応し、主体的に学び、考え、行動できる力が必要」とされ、その主体的に学び、考え、行動できる力を「自立した学習者」として捉え、その姿を「目的や状況に応じて、自分に合った学び方を工夫したり、学習意欲を自ら引き出したりして学習できるような児童生徒」としています。そのうえで、授業は、授業を行う教師の姿に基づく授業から「子供の姿に基づく授業改善」（子どもにゆだねる授業、教師は、ファシリテーター）としています。そのための授業改善の取組が以下の4つとされるものです。

- ① 「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実
- ② 「学習基盤としてのICT」の活用
- ③ 「指導と評価の一体化の」の実現
- ④ 「自学自習力」を育む取組の充実

成程、ごもっとも、です。大きな声では言えませんが、目くら立ててこの4つに向けて邁進するのではないと個人的に考えています。昔で言うところの「読み・書き・計算」の基礎・基本を定着させ、学んだ知識や自分の考

えを伝え合い課題解決を図る「協働的な学び」、その協働的な学びでは、教室での学びだけでなく、体験的な学びも含め、対話を充実させた授業は必要だと考えています。また、「対話」を通した学びは、国語・算数などのいわゆる主要教科だけでなく、本校が取り組む体育や図工・音楽、家庭科などの実技系の授業でも大事なとは言ってもありません。ところで、先生方もご存じのように、学びを支える生徒指導実践の4つのポイント。①「自己存在の感受」②「共感的な人間理解」③「自己決定の場の提供」④「安全・安心な風土の醸成」が何よりも大事なものだと考えています。県も勿論、その重要性を指摘し上記した4つの授業改善の取組を支えるものとしています。

さて、「グランド・デザイン」ですが、本校の教育理念「豊かな心を持ち、夢や目標に向かって自ら考え、取り組む子どもの育成」や本年度の重点目標である「自他の生命を大切に、相手の立場を考え、思いやりの心を持って行動する子」の育成のために、先生方には、「心づくり」「学びづくり」「仲間づくり」に示したこと、特に、心づくりの「思いやりの心」日本一と、仲間づくりで示したことに取り組んでほしいと思います。



13日（火）委員会サミットがありました。その中で、これからの委員会活動で取り組みたいこととして体育委員会からプールの授業が終わったらプールでみんなで楽しめることをやりたいとの発言や放送委員会からは、6月の「平和月間」に向けて、図書委員が平和に関する本を選んで、その本を放送委員が朗読して放送するとの提案もありました。子供たちが主体となってより良い豊崎小学校を作っていく。いわば、子どもの姿に基づく委員会活動の姿の萌芽が見られました。私は嬉しくなりました。同時に、このように、自分たちで考えを出し合い、取り組みを策定し、実際に行ってみる。このような力と経験が子ども達が社会に出た

時、生きて働く力になると思うし、何が問題かを考え、それを解決する力、「問題発見・解決能力」の育ちに繋がると思います。翌14日（水）には、オンラインでの児童朝会。児童会が今年度の漢字として「彩」を提案しました。豊崎っ子



一人一人が自分らしさ、自分の良さ（自己存在の感受）を発揮して彩られる豊崎小学校。自分の学級や仲間の為に、または、学校の為になる取組のアイデアを出し合い実行することで魅力ある学級・学年・学校として彩られることでしょ。う。「さんづけ」や「ふわふわ言葉」、人の話を「心で聴く」ことも暖かい学級づくりに寄与することでしょう。また、「もくもく清掃」をすることは教室や学校を綺麗にすることの思いやり、トイレのスリッパや履物を綺麗にそろえることは「物」に対する思いやりです。子どもたちの「思いやり」が彩られる学級・学年・学校づくりを子ども達と一緒にやって取り組みましょう。



左の写真は、5年生が1年生に靴箱の掃除の仕方を教えている場面と体力テスト「ちょう座体前屈」の補助に入った6年生の姿です。優しさといったわがやが溢れていました。1年生への上級生の「思いやり」です。この1年「思いやりの心」日本一と、各学級・学年、委員会活動等の子どもの思いとアイデアを活かした取組により魅力ある豊崎小学校を目指しましょう。